

2026 年 9 月 7 日

高知県知事 瀨田省司様

公益社団法人 高知県建築士会 会長 植村 佳史
一般社団法人 高知県建築士事務所協会 会長 田中 健一
公益社団法人 日本建築家協会 四国支部高知地域会 会長 鈴江 章宏



高知県知事公邸の保存活用に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が高知県における知事公邸は、日本を代表する建築家・村野藤吾の設計によって 1963 年に竣工し、本県の県政の舞台として、また賓客を迎える場として継続的に活用されてきました。現在、竣工から 60 年以上が経過し、今後のあり方に関する議論が慎重に進められております。

こうした状況に対し、いま一度、当該建築の建築的価値を見直すため、県内建築業界の 4 団体が連携し、昨年度より当該建築に関する調査研究ならびに見学会、村野藤吾研究の第一人者である笠原一人先生を招聘した講演会を開催してまいりました。見学会・講演会には、定員を大幅に上回る応募が寄せられ、関心の高さがうかがわれるとともに、「高知県の宝だと改めて強く思った」、「唯一無二の希少性があり、できることなら広く高知県民に価値が知られ、県民の資産として還元されて欲しいと思う」といった保存と活用を求める声が県内外から多く上がっています。

ご承知の通り、現在の知事公邸は、昭和戦後の教育施設の充実に伴う土佐女子中学高等学校との土地建物の交換契約という特殊な経緯の中で、財政的に厳しい時期でありながらも質の高い建築を目指して整備されました。高度経済成長期を迎えようとする時代に、高知県が将来を見据えて築いた建築であり、戦後の県政の歩みを今に伝える貴重な歴史的遺産でもあります。

設計者である村野藤吾は、モダニズムが主流の時代において、多様な様式を組み合わせた独自の表現が国際的に評価されている建築家です。鉄骨と檜による複合柱を用いて長く張り出した軒、庭園と一体化した応接空間など、本建物には和風建築としての繊細さと現代建築の合理性が調和した村野建築ならではの魅力が随所に表れています。さらに、設計過程では、村野・森事務所と県担当者、地元設計事務所が緊密に協働した記録が残されており、本県の建築技術の発展を物語る建築としても大きな意義を有しています。

知事におかれましては、高知県が世界に誇る貴重な建築文化遺産としての価値をあらためてご認識いただき、保存活用により後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。私ども 3 団体は、この「高知県の宝」を未来へつなぐため、出来る限り協力させていただきます、共に歩いていく所存であることを申し添えます。

敬具